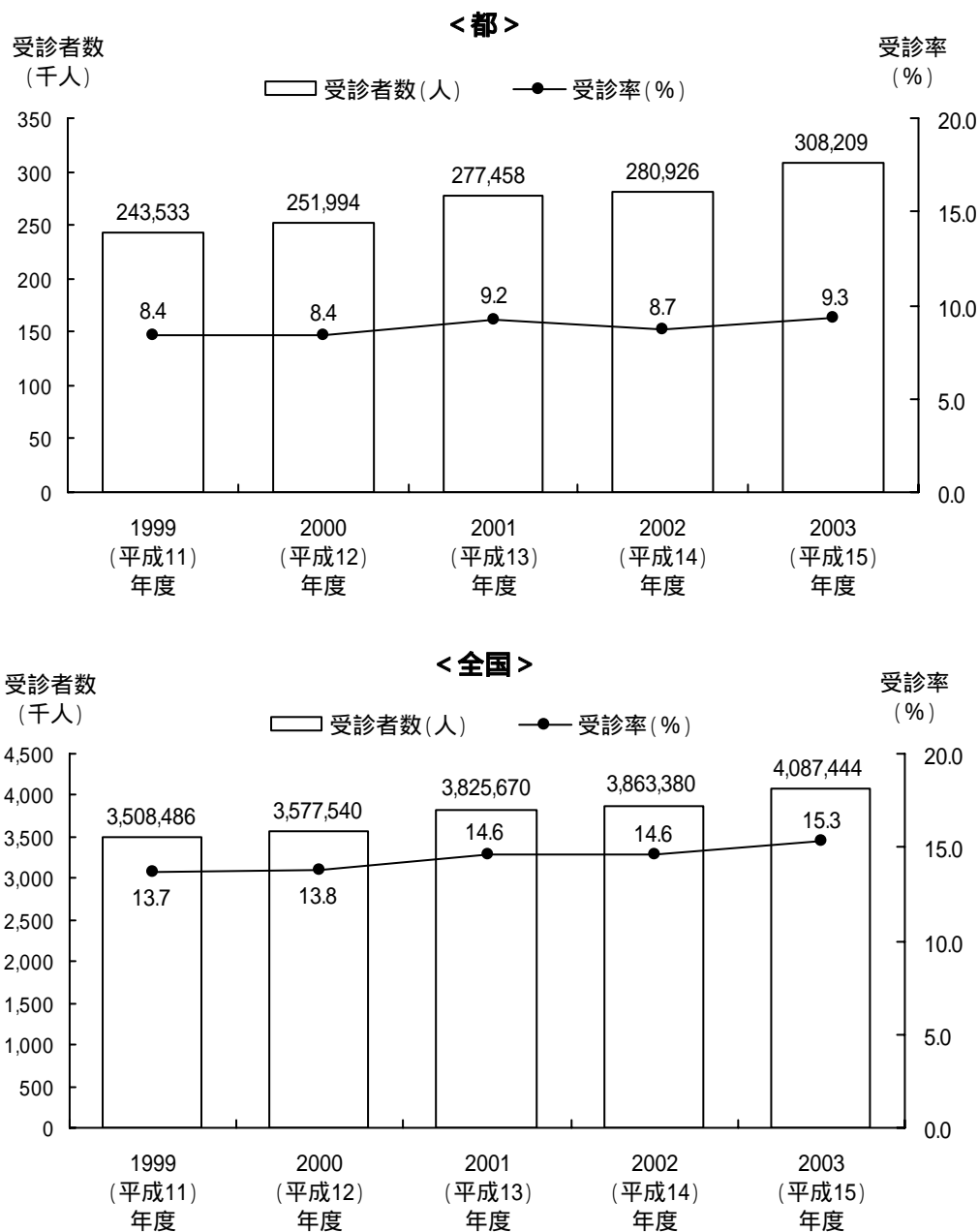


## - 4 妊娠・出産・避妊

### 1 子宮がん・乳がん検診率

子宮がん・乳がんの検診率の推移をみると、都の受診率はどちらもほぼ横ばいだが、全国に比べるといずれの年度でも低くなっている。

図表 - 4 - 1 子宮がん検診率の推移（都・全国）



注1：対象者は30歳以上の女性

注2：検診項目

問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診とし、必要に応じてコルポスコープ検査。

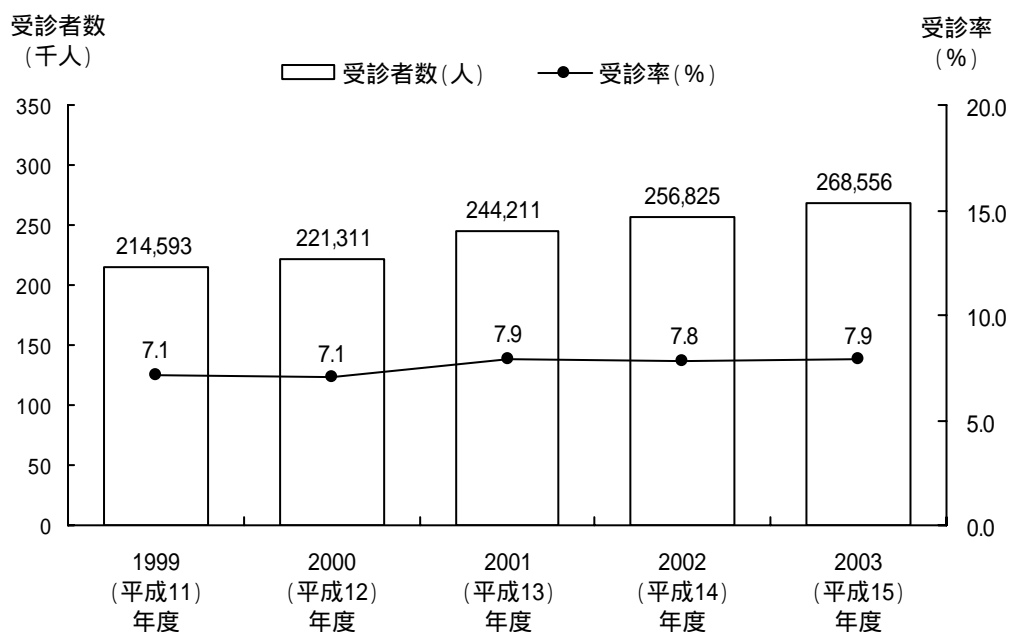
医師が必要だと認めるものに対しては、子宮体部の細胞診（子宮内膜細胞診）。

注3：受診率 = 受診者数 / 対象者 × 100

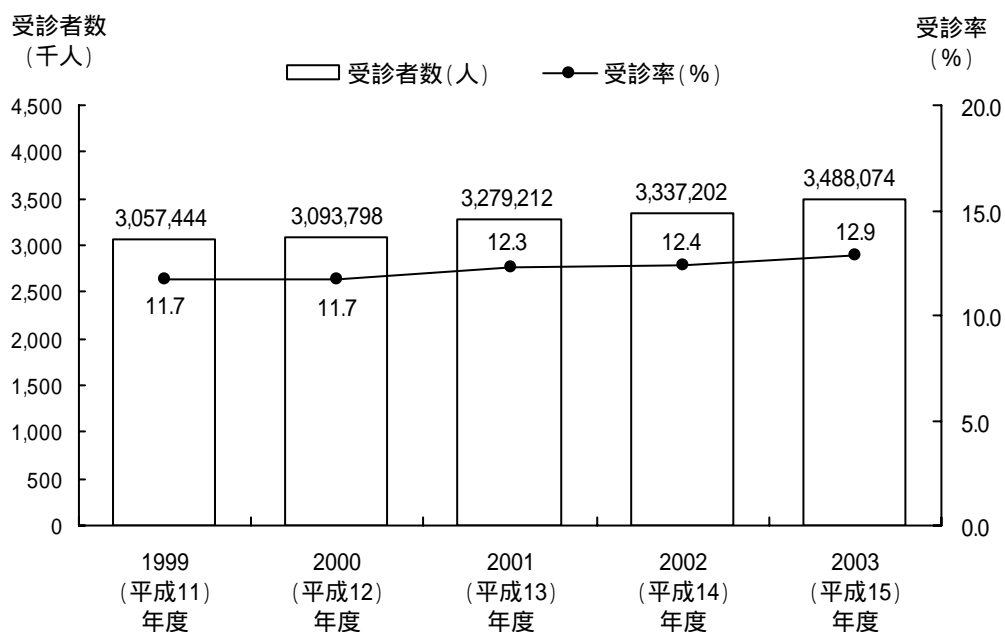
資料：厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

図表 - 4 - 2 乳がん検診率の推移（都・全国）

< 都 >



< 全国 >



注1：対象者は30歳以上の女性

注2：検診項目

問診、並びに視触診及び乳房エックス線検査。

注3：受診率 = 受診者数 / 対象者 × 100

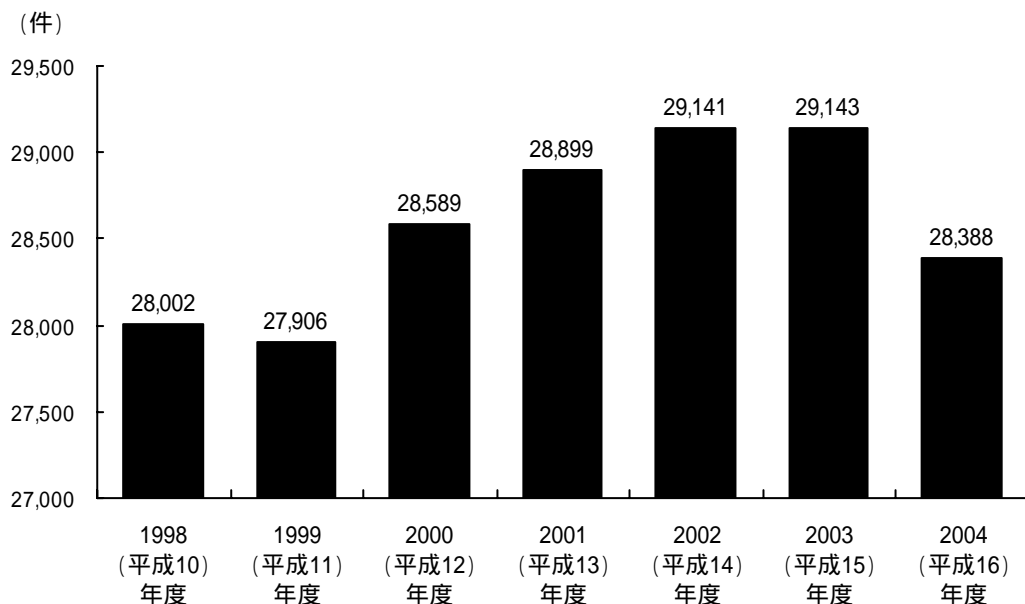
資料：厚生労働省「地域保健・老人保健事業報告」

## 2 人工妊娠中絶件数

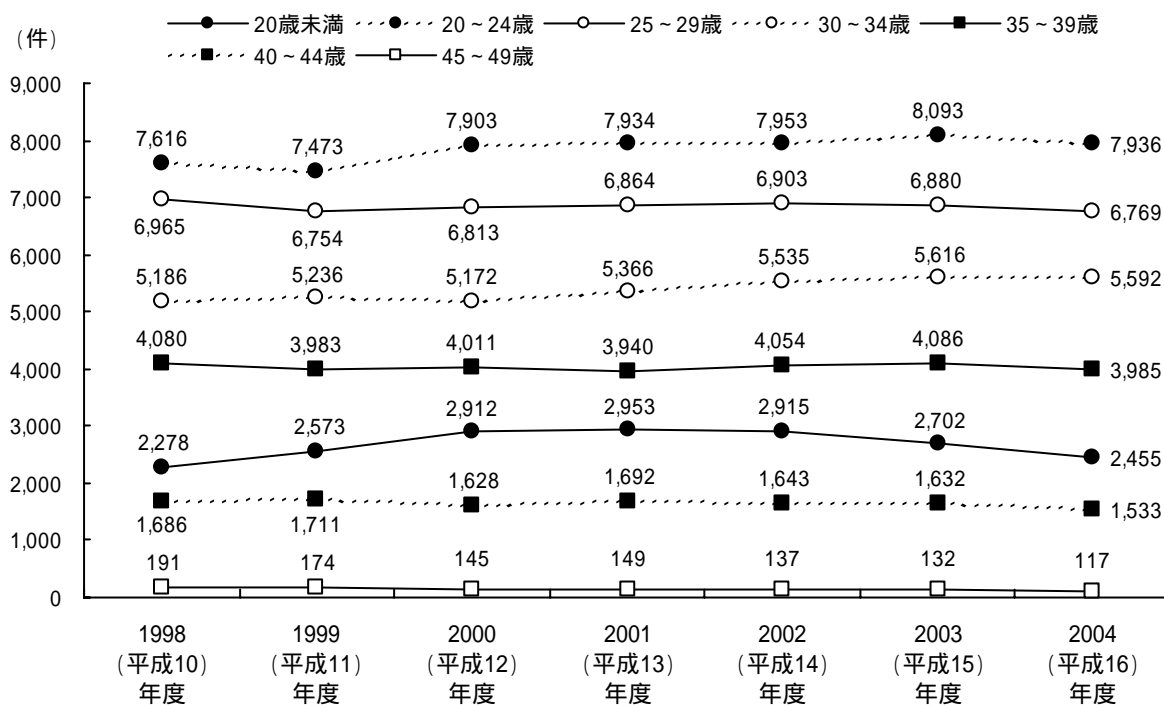
平成16年度の人工妊娠中絶は、都・全国ともに前年度から大幅に減少している。年代別にみると、都・全国ともに20～24歳が最も多い。

図表 - 4 - 3 人工妊娠中絶件数の推移（都）

< 総計 >



< 年代別 >

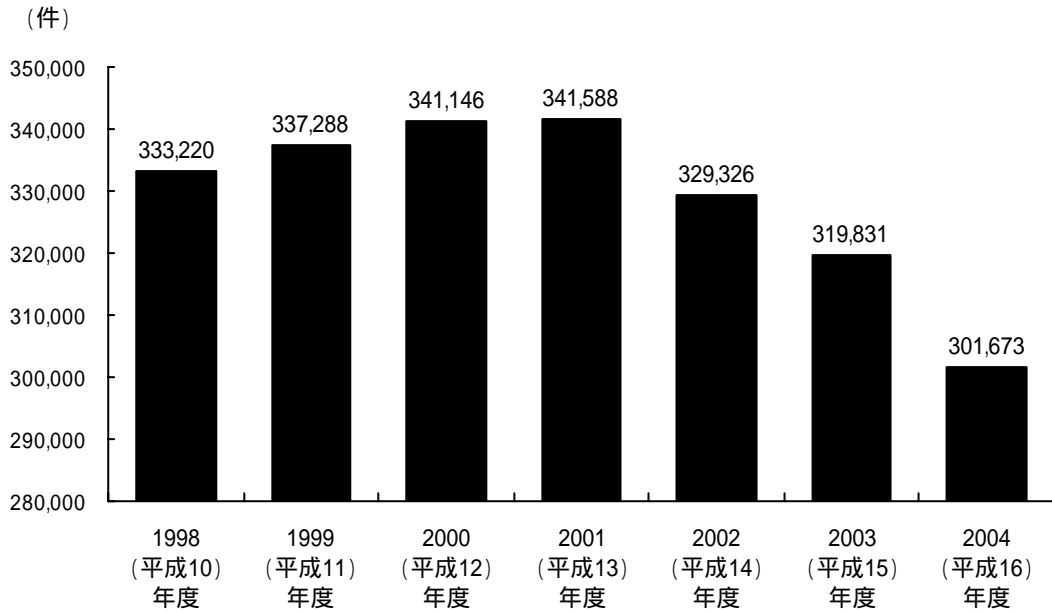


注：年齢不詳の者を除く

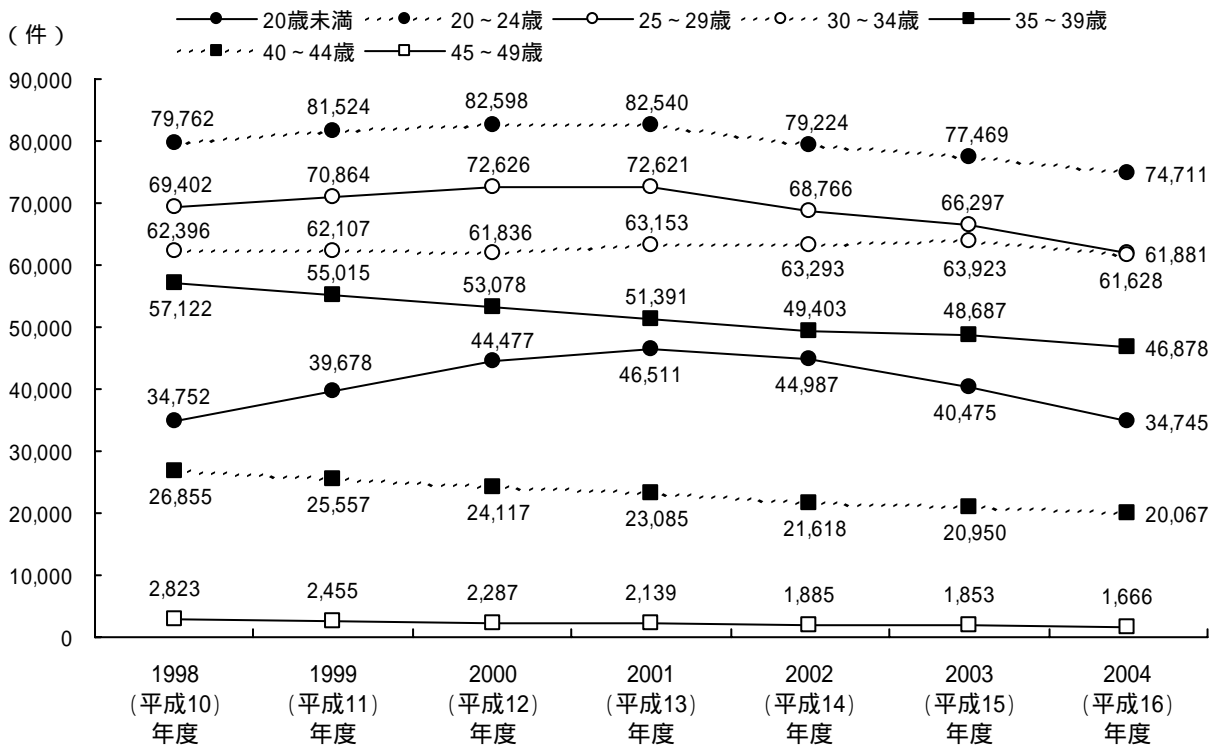
資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

図表 - 4 - 4 人工妊娠中絶件数の推移（全国）

< 総計 >



< 年代別 >



注：年齢不詳の者を除く

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」